

パル動物病院

～人と動物の絆～

よりよい関係を目指して

私たちは最先端の診療技術を生かし、地域に密着した動物病院を目標にしております。

●●パルニュース 2021年10月●●

- 犬の先天性水頭症
- 重症熱性血小板減少症候群

●●●●●診療時間●●●●●

受付時間

●裾野センター病院

全日 午前 9:00～11:30
午後 14:00～18:30

●沼津病院

平日 午前 9:00～11:30
午後 14:00～18:30
日 午前 9:00～11:30
木・祝日 休診

●●●●●お問合せ●●●●●

●裾野センター病院

静岡県裾野市伊豆島田 843-5
TEL: 055-993-3135

●沼津病院

静岡県沼津市沼北町 1丁目 5-27
TEL: 055-922-6255

●ウェブサイト

<https://pal-ah.jp>



犬の先天性水頭症

動物の頭は、頭蓋骨と呼ばれるヘルメットのような硬い骨で構成されています。脳は、頭蓋骨によって守られており、脳の中には脳室という部屋がいくつか存在します。この脳室の中は、脳脊髄液という液体で満たされています。脳脊髄液は、脳室で作られ、絶えず脳室の中を川のように循環しています。しかし、どこかで流れが悪くなると脳室内に脳脊髄液が溜まっていきます。水頭症は、なんらかの原因で脳室内に脳脊髄液が過剰に貯留した状態をいいます。水頭症の原因は生まれつきの場合(先天性)と、何らかの病気が原因で起こる場合(2次性)に分けられます。今回は、先天性水頭症についてお話しします。

発生しやすい犬種

チワワやマルチーズ、ポメラニアン、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエルなど小型の短頭種で多くみられます。

症状

水頭症の多くは、生後3ヵ月から半年で症状が現れます。症状は、歩くときにふらつく、首を傾げたような姿勢をとる(斜頸)、両目が違う方を向く(斜視)、

失明と様々です。重症な例では痙攣発作を起こし、昏睡状態になることもあります。また、しつけがなかなか覚えられない、怒りっぽく攻撃的といった行動の異常がみられることもあります。

診断

水頭症に特徴的な症状や神経徴候に加え、脳室拡大の有無を調べます。水頭症を診断するための方法として、レントゲン検査や超音波検査、CT検査がありますが、これらの検査だけでは水頭症が分からない場合が多いため、多くの場合、診断にはMRI検査が必要です。

治療

内科療法により脳脊髄液の産生を抑える、または、脳脊髄液の吸収を促進する治療を行います。水頭症が原因で痙攣発作が起こっている場合は、発作を止める薬も合わせて使用することもあります。内科治療を行っても症状が改善しない場合は、外科治療を行う場合もあります。

先天性水頭症の場合、治療を始めるタイミングや治療内容は、症状の重さによって異なります。気になる症状があれば、当院スタッフまでお尋ねください。

● 今月の専門科診療 ●

今月は下記の日程で専門科の診察を行います。ご希望の方は事前にご予約ください。(カッコ内はカレンダー内の省略形です)

◆口腔科(口)

博士(歯学): 奥田 綾子 先生

◆エキゾチックペット(エキゾ)

エキゾチックペットクリニック
博士(獣医学): 藪野 晋吉 先生

◆皮膚科(皮)

アイデックスラボラトリーズ株式会社
博士(獣医学): 関口 麻衣子 先生

◆問題行動治療科(行)

博士(獣医学) フリッツ 吉川 綾 先生

◆眼科

博士(獣医学): 当院 小野 啓
毎週火曜～土曜日
(カレンダーには表記していません)
学会等で不在のこともありますので、事前のご予約をお願いいたします。

2021年10月						
月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7 □	8	9	10
11	12 エキゾ	13	14	15	16	17
18	19 □	20 □ 皮	21 □ 皮	22 行	23	24
25	26	27	28 エキゾ	29	30	31
新型コロナウイルスの影響により、やむなく変更・休診になることもあります。事前にお問合せください。						

重症熱性血小板減少症候群

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは近年問題となっているウイルス感染症です。SFTS ウイルスを持ったマダニが犬や猫に付着して咬むことで、ウイルスの入った唾液が体内に入り、感染します。ウイルスを持ったマダニに咬まれれば人も感染する恐れがあり、重症化した場合、犬や猫だけでなく人でも命に関わることがある人獣共通感染症です。

今まで西日本での感染が主でしたが、今年の3月に静岡県における人への感染が確認されました。身近に潜んでいるかもしれないSFTSについて注意点を話します。

<感染経路>

SFTSはウイルスをもったマダニに咬まれることが原因で感染します。マダニはちょっとした草むらや山林など、植物のあるところに潜んでいることが多いので注意が必要です。

完全室内飼育ならマダニはつかないと思われがちですが、衣服などに付着して、屋外から持ち込まれる可能性もあります。

<症状>

SFTSに感染すると、

- ・発熱
- ・元気、食欲の低下
- ・嘔吐
- ・血の混じった下痢（犬の場合）

などの症状がおこります。

病気の進行は早く、重症化すると猫では約60%、犬では約40%が命を落とす可能性があります。

<治療法>

今のところSFTSについては有効な治療薬やワクチンは見つかっていません。もし症状が出てしまった場合は、発熱や下痢など、犬や猫の症状に合わせた治療をおこない、症状をやわらげることで、できる限り対応します。

<対策>

SFTSの一番の対策は犬や猫がマダニに咬まれないようにすることです。草むらや山林など、マダニの生息する場所を避けて生活することや、庭など生活環境

の除草をすることでマダニとの接触機会を減らすことができます。

しかし、それが難しいのであれば、マダニの予防薬を投薬することが有効です。予防薬の投薬とともに、犬では散歩の後や、猫では外から帰ってきたときなどに特にマダニのつきやすいところ（頭、耳、指の間、顔周り）にマダニがいないか、体をチェックすることが大切です。

もし咬まれていた場合は、マダニは強力に皮膚に固着するため、無理に取り除こうとするとマダニの一部が体内に残り、炎症を起こすことがあります。そのため、マダニに咬まれていた場合は動物病院を受診して適切な処置を受けることが必要です。

<注意点>

SFTSの注意点は、人も動物も感染する可能性のある病気であるということです。もし万が一、家の犬や猫がSFTSに感染してしまった場合、咬まれたり舐められたりすることで唾液から人へ感染する可能性もあり、尿や便からも感染する恐れがあります。

<まとめ>

外から帰ってきた犬や猫に以下のような症状がある時は、SFTSの可能性があります。

- ・体にマダニがいる、またはマダニに咬まれた跡がある
- ・屋外に出る犬や猫で食欲、元気がない
- ・下痢、嘔吐などの消化器症状がある
- ・発熱がある、またはありそう
- ・尿が異常に黄色い

いくつか該当する場合はお電話でご相談ください。

<参考文献>

厚生労働省 HP

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000169522.html>

静岡県獣医師会 HP

<http://www.shizuju.com/publics/index/356/>